

## 国際化学肥料ニュース (2019年1月)

### 肥料業界の2019年1月動態

- \* 1月10日、インドMMTC社は今年初の尿素入札を行った。1月16日開札、2月28日まで船積みという条件である。購入数量が価格により変動する。消息筋によれば、今回の入札はイラン産尿素を排除する。2018～2019年度インドの尿素需要量3,000万トン、国内生産量2,400万トン、不足分600万トンを輸入に賄う予定。今回の入札では、応札価格が低い場合は50～100万トン、高い場合は20～50万トンを契約する予定。
  
- \* 1月16日、インドMMTC社の尿素入札結果が公開された。22社計290万トンの応札があり、最低応札価格はCFR西海岸289.8ドル/トン、CFR東海岸295.8ドル/トン、前回11月行った尿素入札の応札価格より35～40ドル/トン低下した。インド側は51万トンの購入を契約する。中東産尿素約40万トン、中国経由のイラン産尿素が約12万トンという内容である。
  
- \* 1月第1週目のリン安市況が下落し続けている。インドとパキスタンの需要がないため、中国DAPのFOB価格が400ドル/トンまで下がった。最新データによれば、12月末インドのDAP在庫量が83.1万トン、近年来最高水準である。一方、アメリカがリン安の需要が旺盛で、すでにモロッコから3船、サウジアラビアから1船のリン安、約15万トンを契約済み、1月出港する予定である。
  
- \* 中国国家统计局の最新データによれば、2018年11月中国の化学肥料生産量480万トン(N, P, K換算、以下同)、前年同期より1%減少した。その内訳は窒素肥料が6.6%減の285.3万トン、尿素実生産量が12.5%減の180.5万トン。リン酸肥料が2.4%減の121万トン、加里肥料が33.5%増の73.7万トン。
  
- \* 中国税関の統計によれば、2018年12月の化学肥料輸出量が85%増の210.6万トン、そのうち尿素輸出64万トン、DAP輸出37万トン。輸入量が113万トン、そのうち塩化加里98万トン、化成肥料13万トン。  
2018年中国化学肥料輸出量が1.6%減の2,494万トン、輸出金額が16.2%増の71.52億ドル。尿素輸出量が46.3%減の244万トン、DAP輸出量が16.7%増の747万トン、NPK化成肥料輸出量が773.9%増の36.5万トン。ほかに第3国貿易の方式で塩化加里19万トンを転売した。  
一方、化学肥料輸入量が4.9%増の950万トン、輸入金額が17.8%増の27.19億ドル。その内訳は塩化加里輸入量が1%減の746万トン、NPK化成肥料輸入量が32.5%

増の 146 万トン。ほかに尿素 16 万トン、硫酸加里 7 万トン、DAP6 万トンも輸入した。尿素について 5 万トンがウクライナから、4.4 万トンがバーレーンから、3 万トンがサウジアラビアから、2.1 万トンがロシアからの輸入である。7 万トン硫酸加里が全量ドイツから、6 万トン DAP が全量モロッコからの輸入である。ほかにイラン産尿素約 80 万トンを第 3 国（インド）に転売した。

- \* ベラルーシの Belaruskali 社は 2018 年の加里肥料生産量が 1200 万トンを超え、史上最高を記録した。

一方、カナダ税関の通関統計によれば、1～11 月の塩化加里輸出口増は 13%増の 1986 万トン、これも史上最高である。2018 年の塩化加里輸出量が間違いなく 2,000 万トンを突破する。

- \* インドとパキスタン、ブラジルのりん安需要が乏しいため、1 月第 2 週のりん安市況が下落し続けている。

東半球では、1 月 9 日開札されたインド NFL 社の 10 万トン DAP 入札に 6 社の応札があり、最低応札価格が CFR408～409 ドル/トン、GSFC 社も CFR408 ドル/トンで 3 万トン中国産 DAP、IPL 社が KSCL 社から CFR409 ドル/トンで 2 万トン DAP を購入した。サウジアラビアが CFR430 ドル/トンでタイに 1 万トン DAP、FOB410 ドル/トン未満の価格で DAP と MAP 合計 3 万トンを輸出した。中国産 DAP の FOB 価格を 395～400/トンに下げた。

西半球では、ロシアの EuroChem 社が FOB405～410 ドル/トンで 1.5 万トン MAP をブラジルに、FOB410～415 ドル/トンで 1 万トン DAP をアルゼンチンに販売した。

- \* イラン税関の速報によれば、2018 年イランの尿素輸出量が 26.4%増の 416 万トン。1～8 月の主な輸出先はインドで、アメリカによる経済制裁が再開した 9 月以降は、輸出先がトルコと中国であった。特に中国に輸出した 80 万トン尿素はほとんどインドに再輸出した。

- \* 中国窒素肥料工業協会にデータによれば、中国 2018 年 1～11 月のアンモニア生産量が 4.4%減の 4974 万トン、窒素肥料（N 換算）が 6.6%減の 3327.1 万トン、尿素実生産量が 7.5%減の 4618 万トン、尿素輸出量 180 万トン、輸入量 16.4 万トン。窒素肥料業界全体の売上高が 15.1%増の 1993.4 億人民元（約 295 億ドル）、純利益が 164.3%増の 88.5 億人民元（約 13 億ドル）。

- \* 1 月第 2 週のりん安市況が振るわなかった。インド NFL 社が 1 月 9 日開札された 10 万トン DAP の入札では中国産 DAP が CFR 東海岸 405.47 ドル/トン、CFR 西海岸

406.97 ドル/トンで落札した。チュニジアの GCT 社が FOB440 ドル/トン以下の価格でイタリアとフランスにそれぞれ 1.5 万トンと 6000 トン DAP、モロッコ OCP 社が CFR440 ドル/トンでマリンに 3 万トン DAP と MAP を輸出した。

ブラジル向け粒 MAP の見積 CFR 価格が 420～425 ドル/トンに下落し、タイやインドネシア向け DAP の見積 CFR 価格も 10 ドル下落して 410～415 ドル/トンになる。

\* 国際塩化加里の貿易データ

国名	輸入・輸出	期間	数量 (万トン)	増減率
カナダ	輸出	2018 年 1～11 月	1986	+13%
チリ	輸出	2018 年 1～11 月	70	-37%
ブラジル	輸入	2018 年 12 月	23.6	
中国	輸入	2018 年 12 月	60	
インドネシア	輸入	2018 年 1～11 月	303	+7%
オーストラリア	輸入	2018 年 1～11 月	47.8	+54%
トルコ	輸入	2018 年 1～11 月	19	+2%
南アフリカ	輸入	2018 年 1～10 月	35.9	+56%

- \* 1 月第 2 週のリン安市況が振るわなかった。インド NFL 社が 1 月 9 日開札された 10 万トン DAP の入札では中国産 DAP が CFR 東海岸 405.47 ドル/トン、CFR 西海岸 406.97 ドル/トンで落札した。チュニジアの GCT 社が FOB440 ドル/トン以下の価格でイタリアとフランスにそれぞれ 1.5 万トンと 6000 トン DAP、モロッコ OCP 社が CFR440 ドル/トンでマリンに 3 万トン DAP と MAP を輸出した。

ブラジル向け粒 MAP の見積 CFR 価格が 420～425 ドル/トンに下落し、タイやインドネシア向け DAP の見積 CFR 価格も 10 ドル下落して 410～415 ドル/トンになる。

- \* 1 月 8 日、ベラルーシの BCP 社は 2018 年の加里肥料生産量が 1200 万トンを超え、最高記録を更新したと発表した。また、ペトリコフ加里鉱山と精製工場が 2019 年下期に完成し、塩化加里生産能力が 150 万トン増加し、2020 年の加里肥料生産量が更新する見通しである。

- \* 1 月第 3 週のリン安国際市況が振るわなかった。東半球では CFR インド価格が小幅に下落し、CFR タイ価格も 405 ドル/トンに下落した。インドネシアの 16 万トン DAP 入札がまだ開札していないが、最低価格が CFR410 ドル/トン未満と予測される。

西半球では、モロッコ OCP 社がまたエチオピアの 62.5 万トン窒素リン酸硫黄系化成肥料の入札に落札した。これは昨年 10 月に続く 2 回目の落札である。これにより 2019

年第1四半期の生産量がほぼ埋められる。アメリカは春シーズンに向けロシアとメキシコ産リン安の輸入が活発になるだろう、南米はリン安輸入の動きがない。

- \* 東南アジアの塩化加里市況は堅調さが続いている。カナダの Canpotex 社がタイと第1四半期の塩化加里価格交渉に粒状塩化加里 CFR 価格 345 ドル/トンで合意した。ベトナムの第1四半期の粒状塩化加里 CFR 価格が5ドル上昇し、315ドル/トンになる。
- \* インドとモロッコ OCP 社は2019年第1四半期の粗リン酸価格に合意した。2018年第4四半期の価格より18ドル/トン下がり、CFR750ドル/トンにする。これは、昨年11月からのリン安国際市況の下落に合わせ、値下げにした。

## 大手各社の営業業績

### 肥料資源の探索と肥料プラント新規建設

- \* インドネシア PKG 社の新しい窒素肥料プロジェクトが完成し、試運転に入った。当該プロジェクトの設計生産能力がアンモニア 2000 トン/日、尿素 1725 トン/日、投資額約5億ドル。2015年着工、2019年第1四半期完成し、正式稼働という計画である。総請負は中国の五環エンジニアリング社とインドネシア国営 ADHI 社である。
- \* オーストラリアの Danakali 社はアフリカエリトリアの Colluli 加里鉍山を開発するため、アフリカ開発銀行から2億ドルの借り入れを契約して、エリトリア政府と合弁企業を設立した。ただし、具体的な開発スケジュールがまだ発表されていない。
- \* イギリスの Emmerson PLC 社はモロッコにある Khemisset 加里鉍山の開発可能性研究を完了し、2019年から探鉍用井戸の試掘を開始すると発表した。Khemisset 加里鉍山の鉍石埋蔵量3億1140万トン、平均 K2O 含有量 10.2%、鉍脈が地表下 450m にあり、採掘しやすいという。
- \* Kore Potash 社がアフリカコンゴ政府から Sintoukola 加里鉍山の開発許可を受けた。開発期間3年と予定される。加里鉍床は地表下 400~600m に厚さ 7~12m のカーナライト層4層から構成され、鉍脈の厚さが合計 30~40m もある。K2O 含有量 13.0%以上鉍石埋蔵量が 10.7 億トンもある。Kore Potash 社の発表によれば、鉍床が浅く、採掘が簡単で、港も近いいため、塩化加里の生産コストが 100 ドル/トンに抑えられるという。
- \* 1月16日、オーストラリアの Centrex Metals 社はオーストラリアクイーンズランド州北西部にある Ardmore リン鉍山の開発をほぼ完成し、年内に稼働すると発表した。

Ardmore リン鉱山は P2O5 含有量 30.2%を超えるリン鉱石埋蔵量が 1010 万トン、最初の生産能力が年間 40 万トン、2021 年以降は年間 80 万トンに拡大する計画である。2018 年 5 月インド GSFC 社は Centrex Metals 社と覚書を交え、10 年間で毎年 30 万トンリン鉱石を購入する約束である。

- \* ナイジェリアからの報道によれば、モロッコの OCP 社が 10 億ドルを投資して、ナイジェリアに 2ヶ所の化学肥料工場を建設し、アンモニアと DAP を生産する計画を打ち出した。これはナイジェリア政府が国内化学肥料産業を保護するため、化成肥料の輸入に外貨の使用を認めない措置に対する対応である。また、OCP 社が 2019 年 9 月までに Ogun 州と Kaduna 州にそれぞれ 1ヶ所の BB 配合工場を設置し、BB 肥料の生産を始めると発表した。

## その他

- \* 1 月 10 日、ブラジル国家石油社 (Petrobras) はブラジル北西部に所有する 2ヶ所の窒素肥料工場を賃貸に出すと発表した。この 2 工場は sergipe 州の Fafen-SE 工場 (年間生産能力アンモニア 45.6 万トン、尿素 65.7 万トン、硫安 30.3 万トン) と Bahia 州の Fafen-BA 工場 (年間生産能力アンモニア 49.5 万トン、尿素 49.5 万トン) である。

設備老朽化と放漫経営で、この 2 工場の 2017 年の赤字が 2.15 億ドルに達し、2018 年 3 月に閉鎖を発表したが、ブラジル石油労働者組合の反対で、閉鎖から外部賃貸に変更した。近いうちに入札を行い、賃借人を決めたいという。

また、ブラジル国家石油社が上記 2 工場にセットとなる Aratu 港にあるアンモニアと尿素有のバースも賃貸に出す予定である。当該バースは 2 万トンアンモニアと 3 万トン尿素有の積込みと保管が可能である。

## 資料

- \* 2018 年中国輸出化学肥料明細 (出所：中国税関統計データベース)

品名	数量 (万トン)	前 3 位の輸出先と比率
DAP	746.8	インド 40.7%、パキスタン 19.5%、ベトナム 8.1%
硫安	682.1	ブラジル 19.6%、インドネシア 17.8%、ベトナム 12.1%
MAP	249.0	ブラジル 32.7%、アルゼンチン 15.3%、オーストラリア 14.2%
尿素 (水溶液を含む)	244.7	インド 27.1%、韓国 16.6%、北朝鮮 7.7%
重過リン酸石灰 (P2O5≥ 44%)	108.3	インドネシア 27.3%、ブラジル 16.4%、アルゼンチン 11.1%

富過リン酸石灰 (P2O5≥35%)	44.8	インドネシア 27.3%、オーストラリア 8.4%、日本 2.0%
過リン酸石灰 (P2O5<35%)	28.6	オーストラリア 81.6%、ミャンマー11.1%、日本 3.6%
硫酸苦土	102.5	マレーシア 14.1%、インドネシア 8.5%、バングラデシュ 6.4%
塩安	肥料用 91.2 工業用 8.5	マレーシア 41.5%、ベトナム 30.8%、日本 6.2%
硝酸石灰 (NN≥14%)	43.9	インド 18.3%、メキシコ 11.0%、オーストラリア 10.4%
リン鉱石	43.4	韓国 56.6%、日本 16.9%、ニュージーランド 13.0%
NPK 化成肥料	36.5	ミャンマー25.0%、フィリピン 20.9%、モザンビーク 14.9%
NP 化成肥料	95.1	フィリピン 26.7%、ブラジル 15.0%、タイ 11.6%
硝安	25.0	オーストラリア 38.3%、ベトナム 20.8%、ミャンマー14.0%
硫酸鉄	21.8	ベトナム 18.5%、イタリア 8.6%、タンザニア 8.3%
≤10kg 小包肥料	21.6	ベトナム 32.9%、メキシコ 17.3%、カンボジア 5.7%
塩化加里 (保税転売)	19.1	韓国 40.8%、日本 30.9%、フィリピン 10.0%
硫酸亜鉛	17.8	アメリカ 22.7%、オーストラリア 9.3%、ブラジル 6.0%
硝酸加里	肥料用 5.3 非肥料用 6.2	スペイン 23.1%、オーストラリア 12.3%、インド 11.8%
有機-無機混合 肥料	10.2	日本 35.0%、ラオス 23.5%、韓国 11.4%
熔リン	7.5	ベトナム 37.8%、日本 34.5%、ミャンマー13.8%
有機肥料	4.4	日本 21.9%、台湾 21.8%、韓国 14.1%
UAN (尿素硝安液肥)	3.4	オーストラリア 95.3%、ニュージーランド 4.2%、ミャンマー0.2%
その他窒素肥料	2.2	
硫酸銅	1.5	
PK 化成肥料	1.0	
硫酸加里	0.9	
硝安リン肥	0.7	

改質硝安	0.5	
石灰窒素	0.4	
硫硝安	0.2	

\*2018 年中国輸入化学肥料明細（出所：中国税関統計データベース）

品名	数量（万トン）	前3位の輸入元とその比率
硫黄	1078.1	サウジアラビア 19.3%、アラブ首長国連邦 16.1%、韓国 10.1%
塩化加里	748.5	カナダ 40.2%、ロシア 20.8%、ベラルーシ 18.9%
NPK 化成肥料	146.4	ノルウェー 36.1%、ロシア 25.9%、ベルギー 19.7%
アンモニア	93.3	インドネシア 28.0%、サウジアラビア 22.7%、エジプト 14.3%
尿素 (水溶液を含む)	16.4	ウクライナ 30.5%、バーレーン 26.7%、サウジアラビア 18.4%
リン鉱石	13.9	モロッコ 99.3%、デンマーク 0.4%、マダガスカル 0.3%
カーナライトなど加里鉱石	9.4	イギリス 70.2%、ロシア 29.8%
NP 化成肥料	6.6	明け理科 99.1%、フランス 0.2%、イタリア 0.2%
硫酸加里	6.6	ロシア 59.5%、ドイツ 25.5%、北朝鮮 5.8%
DAP	6.5	モロッコ 100%
硫酸加里苦土などその他の加里肥料	2.3	アメリカ 97.2%、ドイツ 2.3%、南アフリカ 0.1%
硝酸石灰	2.2	ドイツ 100%
≤10kg 小包化学肥料	0.9	
有機-無機化成肥料	0.7	
有機肥料	0.4	
MAP	0.4	
硫硝安化成肥料	0.3	
改質硝安	0.2	
UAN 液肥	0.2	
PK 化成肥料	0.2	